



Clara Saal

クララザール
じゅうろく音楽堂
宗次ホール
共同企画

~クララザールで室内楽~ 五島史誉と仲間たち

2019 7/13 [土]

17:30開場 18:00開演

会場:クララザールじゅうろく音楽堂
岐阜市本郷町1-28

50組100名さま
抽選によりご招待
(申込方法は下記をご参照ください)

名曲の数々と、知られざる
北欧の悲劇の作曲家
トイヴォ・クーラの傑作

五島史誉(ピアノ)

出演者 平光真彌(ヴァイオリン)

ルドヴィート・カンタ(チェロ)

プログラム

前半

サン=サーンス: 白鳥
ドビュッシー: 月の光
瀧廉太郎: 荒城の月
カサド: 愛の言葉
ほか

後半

トイヴォ・クーラ:
ピアノ 三重奏曲 イ長調 Op.7

※曲目は変更になることがあります。

申込方法

5月21日(火)から、十六銀行ホームページ(<https://www.juroku.co.jp>)にて申込受付を開始いたします。

申込締切

2019年6月10日(月)

当選発表

当選通知の発送をもって代えさせていただきます(2019年6月12日(水)までに発送予定)。

お問い合わせ先

公益財団法人 十六地域振興財団 クララザールじゅうろく音楽堂 事務局 TEL:058-266-2552

※就学前のお子さまのご同伴はご遠慮ください。

※お申込みに際し、ホームページにていただきました個人情報は、当イベント実施以外の目的で利用することはありません。

主催:公益財団法人 十六地域振興財団 企画協力:宗次ホール

もし彼がもう少し長く生きてくれていたら シベリウスに並ぶ大作曲家に なっていたかもしれない…

トイヴォ・クーラ

Toivo Kuula (1883-1918)

フィンランドの貧しい家庭に生まれたクーラは、幼少期から音楽に親しみ、ヘルシンキ音楽学校に進みます。しかし父親は音楽の道に進むことに反対。休学し実家に帰って仕事をしていた時期もありました。音楽への思いやまず、復学したのち、シベリウス(1865-1957)の最初の弟子として作曲を学びました。ボローニャ、ライプツィヒ、パリに留学したのち、帰国して作曲に指揮にと活躍。シベリウスと共にフィンランド音楽界を担う人物として期待を集めます。しかし、1918年ロシア革命の煽りで勃発したフィンランド内戦の最中、反革命軍の勝利を祝う宴席で酔った兵士と口論になり、頭を撃ち抜かれ34歳の短い生涯を閉じました。

ピアノ三重奏曲は彼の代表作ともいうべきもので、演奏時間は50分。チャイコフスキーの傑作、ピアノ三重奏曲「偉大な芸術家の思い出に」にも匹敵する、情熱溢れる充実した作品です。ほとんど演奏機会のないこの知られざる名曲を、「日本フィンランド外交関係樹立100周年」の今年、室内楽に長けた理想のメンバーの熱演でお聴きください。

(宗次ホール 企画ディレクター 西野裕之)



～ 出 演 ～



五島 史誉 (ピアノ)
Fumiyo Goshima

大垣市出身。東京藝術大学音楽学部附属音楽高校を経て、同大学器楽科卒業。2006年ドイツ・フォルクヴァング音楽大学卒業。その後イタリア・イモラ音楽院フォルテピアノ科において研鑽を積む。カッシーナ・デ・ベッキ国際ピアノコンクール(伊)、フィリッポ・トレビザン国際ピアノコンクール(伊)においてそれぞれ第2位受賞。コンクール受賞を機にイタリア、スロヴェニアなどの音楽祭に招かれ、3都市にてソロリサイタルを行う。浜松国際ピアノアカデミー、チェルボ国際夏期アカデミー、ハウス・マルトゥ講習会など数多くのマスタークラスに参加し、イェルク・デームス、ヴェラ・ゴルノスタエヴァ、ボリス・ペトルジャンスキー、ディーナ・ヨッフエ、ミシェル・ペロフなど世界各国の音楽家のマスタークラスを受講。

2009年に宗次ホール主催公演に初登場以来、同ホールの主催公演に多数出演。J.ララン(サクソフォン)、M.カンタゲリル(ヴァイオリン)、プリマヴィスタ弦楽四重奏団などと共演。2017年にはモーツァルトの後期ピアノ協奏曲8曲(室内楽版)を2日間で演奏し好評を博した。レコーディングにも力を入れており、「In der Nacht」(2015年)「Appassionata」(2016年)をReal Ariaレーベルからリリース。2017年度名古屋市民芸術祭奨励賞を受賞。

現在、名古屋音楽大学、岐阜県立加納高等学校音楽科、岐阜聖徳学園短期大学部非常勤講師。



平光 真彌
(ヴァイオリン)
Shin'ya Hiramitsu

各務原市出身。愛知県立芸術大学卒業。同大学大学院修了。中村桃子賞受賞。青山泰宏、大久保ナオミ、福本泰之、E.ダネル、服部芳子の各氏に師事。第11回日本クラシック音楽コンクール全国大会第3位。第1回宗次ホール弦楽四重奏コンクール第1位。2012年、小淵沢室内楽セミナーにて最優秀カルテットとして「緑の風 音楽賞」及び講師特別賞受賞。

長久手市文化の家の主催事業音楽祭「おんぱく」のプロデューサーや愛知室内オーケストラのコンサートマスター、そして愛知県内各地におけるアウトリーチ演奏活動の実績が評価され、2017年度愛知県芸術文化選奨文化新人賞を受賞。現在も名古屋を中心に客演コンサートマスターやソロ、室内楽と多彩な演奏活動を展開。アマチュアオーケストラの指導や指揮者としても活躍している。2018年に初のソロCDをReal Ariaレーベルよりリリース。現在愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学非常勤講師。



ルドヴィート・カンタ
(チェロ)
Ludovít Kanta

スロヴァキア共和国出身。ブラティスラヴァ音楽院を経て、ブラハ音楽アカデミーに学ぶ。アカデミー在学中にスロヴァキア・フィルの第1ソロ・チェリスト就任。ブラハの春国際音楽コンクールで第2位と同時に、審査員全員一致で、チェコ・スロヴァキア文化庁特別賞を受賞。ほかチャイコフスキー国際コンクールなどで上位入賞を果たす。

1990年来日し、オーケストラ・アンサンブル金沢(OEK)の首席チェロ奏者を務める。岩城宏之、ピエロフラーヴェク、コシュラー、ゲルギエフらの指揮で、OEK、N響、スロヴァキア・フィル、ブラハ響などと協奏曲を共演。録音では『ハイドン&ボッケリーニ:チェロ協奏曲』(NAXOS)がジャズ調のカデンツァで有名で、発売より30年余りたった今でも人気のベストセラー。ほかにも数々のCDがレコード芸術誌で特選盤に選ばれている。2010年、「岩城宏之音楽賞」受賞。2012年にはスロヴァキア外務省より「GOLDEN PLAQUE」を授与された。温かな人間性から溢れ出る品格と音楽性が、聴く人を魅了する。

2018年3月にOEKを退団。現在ソロ、室内楽を中心に国内外で活発に演奏を行っている。趣味は、空手(2段)、登山、写真。